

平塚柔道物語 54

礼は心を表すもの

平塚柔道協会 会長 奥山晴治

「礼」は心を表すものである。先日、私の友人（童夢・プティック経営者）山口ミホさんより「ポストにお辞儀をする青年」の話聞いた。「礼と心」に関する話なので、ここに紹介したい。

山口さんは、巡回車で灯油を配達してくれる業者がいることを知り、依頼することにした。そして、その数日後の朝方、配達する青年を見た。青年はポリタンクに灯油を入れて車庫に置く。自宅を留守にするので、ある程度のお金をポストに入れて置いたのだ。青年は、そのおつりをポストに入れると、ポストに向かって深々とお辞儀をしたのである。2階の窓から、そっと見ていた彼女は、ハッとした。人が見ていようといまいと、きちんと丁寧にお辞儀をする青年の姿は、美しく輝いて見えた。今の世の中にこんな純粋な青年がいたのかと驚いたのである。さらに、うれしかったのは汚れたポリタンクを入れるビニール袋を取り替えてくれたことである。彼女は感動し、早速お礼の手紙を書いてポストに入れた。「新しい物と取り替えていただき心からうれしく思います。多謝！！」と。次の配達の際に、彼からの手紙が入っていた。「ちょっとしたことに対して、こんなに感謝され、とてもうれしく新入社員として働く喜びを知ることができました。また、多謝という言葉は、中国の言葉だそうですが大変好きになりました」と。そんな青年の誠実さがお客さんの心の中に通じたのでしょうか。彼は「会社で一番の売上げを達成した」ということ。「3万円の賞金を貰ったので、お客様に日頃のお礼として、お米を贈呈したい」ということも記されてあった。山口さんは、その返事を次のように書いた。「いつも灯油ありがとう。もとの場所にきちんと置いて頂いてうれしく思います。いつもお手紙を拝見し、お客様に対する態度姿勢が、私たちを感

動させてくれます。あなたの誠意ある取り組みは、どんな仕事をしてでも成功すると思います。ありがとうございました」と。その翌朝、2階から彼の姿を見つけた。彼はその手紙をポストから出し、読んでから、しばらく車の中に入ったきり出てこなかった。どうしたのかと心配になって見ていると、涙でくしゃくしゃの真っ赤な顔になっていたのだ。灯油を置き、おつりをポストに入れると、何度も何度もお辞儀をして帰って行った。ポストの中には手紙が入っていたが、車の中で書いたに違いない。手紙には「山口さんの手紙を読み、心から感動し、この手紙を大切に大切に・・・。一生の僕の宝物にさせていただきます。ありがとうございました。多謝、多謝！！」と書かれてあった。

この話を聞いて、私も感動。これこそ、礼と礼、誠意と誠意、感謝と感謝の心のキャチボールであった。そして、まさに柔道の礼の神髄がここにあるのではないかと感じた。

全日本柔道連盟が発行している「柔道への思い」の講話集の中では次のように述べている。「柔道は、練習や試合において、相手がいないと成立しません。たとえ自分が勝者となっても、自分を高めていただいた相手に対する感謝の気持を忘れるべきではないのです・・・(中略)・・・礼は形式的ではなく、礼の意味を理解し、心から行うものでなければならぬのです」と。「礼は心を表す」という一点を考えてみても、柔道の修行こそ人格形成につながるものであると確信した。



左から、金井理事と真田理事